



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成27年7月7日(水)

木材基礎講座「2,500年前の巨大埋もれ木が出土！」聴講 編

7月7日(水)、能代市海詠坂の木材高度加工研究所において「2015年度 木材基礎講座 暮らしに活かす木の話」を聴講してきました。

今回は今年度第4回目、演題は「2,500年前の巨大埋もれ木が出土！」と興味深いタイトルで、ビックリマークが知的好奇心をさらにくすぐります。平日の火曜日ということで、聴講者はどのくらいいるものかと少し心配でしたが、会場に入るとすでに約30人の埋もれ木マニアの皆さんが集結し、今か今かと開講を待ちわびていました。

木高研の栗本先生による講義は、日東道の象潟IC(仮)予定地から多数の埋もれ木が出土し、年代推定より約2,500年前の鳥海山の山体崩壊が原因と断定したことに端を発する数々の調査・研究成果の雨あられを、象潟周辺の歴史資料や多数の写真を駆使して、私のような埋もれ木素人にも非常に分かりやすくご説明下さいました。

さらに、実際の埋もれ木数点を聴講者に渡してその重さ・手触り・香りを体感することができるというマニア垂涎のサービス(?)もあり、埋もれ木マニアの皆さんにとってはまさに神回、埋もれ木素人の私までもがその魅力にみるみる引き込まれていきました。

聴講日から程なく、秋田河川国道事務所は埋もれ木が出土した象潟IC(仮)を含む区間について、今年秋の紅葉シーズンを前に開通することを発表しました。勝手に運命的なものを感じつつ、そこを通過する際は2,500年前の山体崩壊、60億トンもの土砂、なぎ倒され埋もれていく木々の姿に想いを馳せつつ、同乗する誰かにウンチクを披露したいなと思う、埋もれ木マニア1年生なのでした。。

「木都のしろ」の市民の皆さん、是非一度、木材基礎講座に足を運んでみて下さい！！

※栗本先生、貴重なお話どうもありがとうございました。

文：三日田 和仁



会場の様子



本物の埋もれ木に触れる



埋もれ木のアップ



講師の栗本先生